

共通論題 報告 2

歴史的な文脈から見たウズベキスタン共和国と中国の二国間および多面的な経済連携の
法的側面について

Some Legal Aspects of Economic Partnership of the Republic of Uzbekistan and
the People's Republic of China in Bilateral and International Formats
from the Historical Context

バリディノフ・マンスール

BAKHRIDDINOV Mansur

(一般財団法人日本ウズベキスタン・シルクロード財団代表理事)

要旨

アフターコロナ時代のスタートとして位置づけられる 2022 年は、ウズベキスタン共和国および中国にとって、外交関係樹立 30 周年を迎える年である。ソビエト連邦の解体後、中央アジア地域の半分以上の人口を持つウズベキスタンは、1991 年 9 月に独立を宣言した。当該地域の 5 カ国から見て伝統的な近隣国である中国は、いち早く各共和国に対し国家承認を行ったアジア地域のパートナー国のひとつである。

東アジアの諸国の中で、比較的距離に近いウズベキスタンおよび中国の交流の歴史は、イスラームが普及する以前の古代ゾロアスター教の時代にまで遡る。偉大なシルクロード文明を共通する何世紀にも渡る両国の貿易・国際関係の歴史的な背景に注目する必要がある所以である。2000 年前、当該地域の貿易ルートは、古代中国からウズベキスタンの古代都市国家であったフェルガナ王国（大宛）、バクトリア王国、ソグド王国を繋ぎ、それによって地域・経済利益の基盤を築き、地勢的に戦略的な共存を維持させた。中世に繁栄したアミール・ティムール帝国によって、中国およびその周辺地域に対する軍事遠征が繰り返され、列強や帝政ロシアがアジア地域を支配する前に相互に緊張時代が続いた。政治的なイデオロギーが共通するソ連時代には、中央アジアの各社会主義共和国および中国の地域間交流・通商関係が積極的に行われ、国境地域に領事館などが開設された事実もある。

ウズベキスタン共和国の独立後の 30 年間の協力関係のステージは、新たな内容と質を備えた二国の連携関係に変革したといっても過言ではない。その基礎にある主要な法的な枠組みとして、1991 年の中国によるウズベキスタン共和国の国家承認、1992 年の外交関係樹立、2001 年の「上海協力機構(SCO)」の共同設立、2005 年の友好協力関係に関する条約の締結、2016 年の戦略的パートナーシップの包括的関係の声明などが、新しい時代の協力関係構築の重要な要素となっている。両国のパートナーシップの原動力であるハイ・レベルの政治的対話の充実した総括的な内容と頻度も強調すべきである。

地域および国際舞台における協力関係では、ウズベキスタン共和国を含む中央アジア諸国、ロシア連邦、中国により共同で設立された SCO が本年で 20 年を経過する中、当該地域のみならず、世界的に影響のある地域・国際機関の一つに成長してきたとみることができよう。この国際枠組みにおいて、今後も緊密に連携し、SCO 内での多面的な文書の締結などを含め、中央アジア地域の安全かつ平和なイメージを更に高める取組みが進められると予測されている。注目すべきは、2022 年はウズベキスタン共和国が議長国として就任することが正式に決定されたことである。ウズベキスタンは、「一帯一路」プロジェクトや「アジアインフラ投資銀行」の活動にも積極的に参加している国のひとつである。2020 年には、一帯一路の枠組みにおいて、プロジェクトを推進するための新フォーマット「中央アジア-中国」の設立が具体化され始めた。

両国の関係は、グローバルな変革や国際競争が激化する中、貿易・経済を基礎として、中国からの直接投資と技術移転に加え、国境地帯や国際テロリズム対策などを考慮した安全保障上の共通課題への取組みなどが進められていることなど、安定的かつ新たな発展段階に進んでいる。その現状を解説、分析する。